埼玉県消防学校

消防職員専科教育

第４０期救助科を実施しました

［期　　間］　令和８年８月３１日（月）から１０月９日（金）まで
２２日間（１５４時限）

［会　　場］　埼玉県消防学校

［到達目標］　救助活動に係る最新の専門的知識及び高度な技能及び技術を備え、これらを活用した応用力を十分に発揮できる。また、救助活動及び救助訓練に必要な健康管理ができる。

［教育対象］　救助業務に従事させようとする者で、初任教育修了者かつ採用後３年以上の消防経験を有する３５歳以下の者（入校日現在）

［修 了 者］　２６消防本部（局）　６０名



令和８年度消防職員専科教育

第４０期救助科　日課表

月　日	曜日	ホームルーム	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	備　考	特記事項
		8:30～9:00	9:00～9:50	10:00～10:50	11:00～11:50	12:50～13:40	13:50～14:40	14:50～15:40	15:50～16:40		
8月31日	月		行事その他	安全管理		災害救助対策	急流救助対策		行事その他		・通学
			校内服務	安全管理Ⅰ／熱中症対策		救助関係法令			校内服務		
		担当教官	担当教官	担当教官			秩父消防本部		担当教官		
9月1日	火		災害救助対策								・通学
			災害事例			能登半島地震（WEB）		災害事例			
		担当教官	草加八潮消防局			石川県奥能登広域事務組合消防本部		行田市消防本部			
9月9日	水	行事その他 入校式	行事その他	講話／その他		安全管理	その他				・入校日
			入校式	救助隊員の心構え／校内服務		訓練上の安全管理	基本行動・救助員点検				
			担当教官	総括教官／助教官		副総括教官	消防本部支援教官				
9月10日	木	救助員点検	救助器具取扱訓練（基本確認）								
			（三連・かぎ付・ワイヤーはしご・確保・懸垂降下・各種結索・縛着資機材・墜落制止用器具）								
		担当教官	消防本部支援教官								
9月11日	金	救助員点検	救助訓練								・帰宅日
			検索救助・搬送訓練（第１小隊）				施設設定訓練（第１小隊）				
			施設設定訓練（第２小隊）				検索救助・搬送訓練（第２小隊）				
		担当教官	消防本部支援教官								
9月14日	月		救　　急（合同）								・登校日
			多数傷病者発生時の対応要領								
		担当教官	消防本部支援講師								
9月15日	火	救助員点検	救助訓練								
			はしご水平救助（二）訓練（第１小隊）				一箇所吊り担架水平救助訓練（第１小隊）				
			一箇所吊り担架水平救助訓練（第２小隊）				はしご水平救助（二）訓練（第２小隊）				
		担当教官	消防本部支援教官								
9月16日	水	救助員点検	救助訓練								
			立坑・はしごクレーン救助訓練（第１小隊）				斜めブリッジ救助訓練（第１小隊）				
			斜めブリッジ救助訓練（第２小隊）				立坑・はしごクレーン救助訓練(第2小隊)				
		担当教官	消防本部支援教官								
9月17日	木		救助訓練（合同）								
			交通事故における救助								
		担当教官	民間企業								
9月18日	金	救助員点検	救助訓練								・帰宅日
			高所からの火災救助訓練（第１小隊）				宙吊り救助訓練（第１小隊）				
			宙吊り救助訓練（第２小隊）				高所からの火災救助訓練（第２小隊）				
		担当教官	消防本部支援教官								
9月24日	木	効果測定 分隊効果説明	救助訓練／安全管理			災害救助対策					・登校日
			航空救助／安全管理Ⅱ			土砂災害対策		山岳救助対策			
		総括・技術	埼玉県防災航空隊			深谷市消防本部		埼玉西部消防局			
9月25日	金	安全祈願	総合訓練（合同）								・安全管理の日 ・帰宅日
			火災想定訓練								
		担当教官	消防本部支援教官								
9月28日	月		効果測定（合同）	救助器具取扱訓練（合同）							・登校日
			座学	都市型救助資機材取扱							
		担当教官	担当教官	草加八潮消防局							
9月29日	火	救助員点検	総合訓練（合同）								
			交通救助想定訓練								
		担当教官	消防本部支援教官								
9月30日	水		救助器具取扱訓練（合同）			総合訓練（合同）					
			震災救助Ⅰ			震災救助Ⅱ					
		担当教官	川越地区消防局								
10月1日	木		総合訓練/校外研修Ⅲ：土砂災害対応訓練（第２小隊）							校外研修Ⅱ 校外研修Ⅲ	
			救助器具取扱訓練/総合訓練　校外研修Ⅱ：山岳救助（第１小隊）								
		担当教官	山岳救助／埼玉西部消防局　　土砂災害／支援教官								
10月2日	金		救助器具取扱訓練／総合訓練　校外研修Ⅱ：山岳救助（第２小隊）							校外研修Ⅱ 校外研修Ⅲ	・帰宅日
			総合訓練/校外研修Ⅲ：土砂災害対応訓練（第１小隊）								
		担当教官	山岳救助／埼玉西部消防局　　土砂災害／支援教官								
10月5日	月	救助員点検	総合訓練（合同）								・登校日
			各種救助事象における想定訓練Ⅰ（合同）								
		担当教官	消防本部支援教官								
10月6日	火	救助員点検	総合訓練（合同）								
			各種救助事象における想定訓練Ⅱ（合同）								
		担当教官	消防本部支援教官								
10月7日	水		フレックス	効果測定（合同）		総合訓練（合同）				18:00～20:00	
				実技		分隊活動効果確認				夜間訓練	
		担当教官		消防本部支援教官							
10月8日	木		フレックス	安全管理		災害救助対策			行事その他		・帰宅日 ・退寮日
				訓練施設・設備の安全管理		救助活動と活動事例(WEB)					
		担当教官		担当教官・消防本部支援教官		石川県奥能登広域事務組合消防本部			担当教官		
10月9日	金		安全管理			健康管理			行事その他		・通学 ・修了式
			訓練施設・設備の安全管理			ペップトーク			修了式		
		担当教官	担当教官・消防本部支援教官			民間企業			担当教官		



高所からの火災救助（応急はしご）



都市型救助資機材取扱（低所救助想定）



土砂災害対応訓練



震災救助　クリビング・CSR

川口市消防局　消防士長　蔭山　龍太朗　＊第１小隊　総代



修了しての感想

何よりもまず、第４０期救助科６０名全員が無事に修了を迎えることができたことを心から嬉しく思います。学生全員が、学校教官、支援教官をはじめ、救助科に関わってくださったすべての方々へのリスペクトの心を持ち、和衷協同、人命救助の精神を胸に、そしてこの救助科で仲間と出会い、支え合い、励まし合いながら成長することができたことが何よりも宝物となりました。

このような最高の教育の場を設けてくださった、そしてご指導いただきましたすべての方々に感謝いたします。

後輩へのメッセージ

埼玉県消防学校の救助科で過ごす日々は、皆さんにとって一生の宝物となります。厳しい訓練を恐れず、立ち向かい、苦しい時こそ仲間を信じ、最後まで自分自身と向きあってください。本当に厳しいのは訓練ではなく、その先に待つ災害です。和衷協同、人命救助の精神を胸に知識、技術、そして何よりもかけがえのない仲間を得てください。

入間東部地区事務組合消防本部　消防士長　塩野谷　祐貴　＊第２小隊　総代



修了しての感想

救助科入校中、一貫して思っていたことは、教官、助教官のご指導がとても熱く、そして全力だったということです。本気で埼玉救助の土台を作ろうとしてくれていました。その熱意に私たちも全力でぶつかりました。

入校中のカリキュラムは訓練だけではなく、校外研修や外部講師による講義など、基本的な手技から応用的な訓練まで実施してくださり、知識、技術が身に付くのはもちろんですが、個人の今後の課題等も見つけることができた素晴らしい期間でした。

後輩へのメッセージ

救助科に入校したら知識、技術だけではなく、たくさんの仲間もできます。楽しい時間だけを過ごしただけでは築くことのできない仲間です。辛い時間を一緒に過ごしているからこそ強い絆で結ばれていると思っています。

ぜひ、救助科に入校して、この強い絆で結ばれる仲間を見つけてください。そして、この言葉を未来の救助隊員にも繋いでいってほしいです。

草加八潮消防局　消防士長　梶原　裕介　＊第１小隊　副総代



修了しての感想

２２日間の救助科を終え、救助に必要な知識や技術だけではなく、仲間を信頼することの大切さを深く学びました。苦しい訓練も、互いに声を掛け合い、支え合うことで乗り越えることができました。副総代として第４０期の仲間と過ごした日々や、同じ目標に向かって築いた絆は、これからの消防人生における大きな財産です。

「和衷協同」「人命救助」を忘れず、ここで得た経験をそれぞれの所属での活動に活かしていきます。

後輩へのメッセージ

これから入校する皆さんへ。失敗を恐れず、目の前の訓練に全力で挑んでください。苦楽を共にした同期の仲間は、卒業後も一生の支えになります。２２日間はあっという間です。一日一日を大切に、たくさんの挑戦を重ねてください。第４０期救助科を代表して皆さんの活躍を期待しています。

春日部市消防本部　消防士長　石井　健太　＊第２小隊　副総代



修了しての感想

この救助科では、本当に仲間に恵まれたなと心から思います。分隊、小隊にとどまらず、４０期全員が同じ方向を見て、全力で１ヶ月間過ごすことができました。寮室に戻れば、ふざけた話で盛り上がり、訓練になれば、目の色が変わり、仲間を助ける声が飛びかい、全力で活動する姿を見ると、まさに「和衷協同」という言葉がふさわしいなと強く感じました。この救助科では、最も多く、教官、助教官から言われた言葉は、「ダミーをダミーだと思うな」です。どうしても人形として扱ってしまう時が少なからずありました。ですが、自分の家族が助けを求めていると思えば、やることは決まってきます。その気持ちを忘れず、今後の訓練を行っていきます。仲間なくして救助なし、心なくして救助なし。

後輩へのメッセージ

まずは、約１ヶ月、救助に没頭できる環境をあたり前だと思わないでください。この環境で訓練ができるのは、各所属の協力はもちろん、学校関係者や食堂で食事を作ってくれる方、朝から晩まで学生のために考え、指導してくださる教官、助教官の皆様のおかげです。常に感謝を忘れないでください。また、訓練では、救助服のシワ１つ、編上げの汚れ１つ、結索の緩み１つ、すべてに妥協することなく、本気で臨んでください。仲間を想い、仲間と協力し、仲間と悩んで前に進んでください。そうすれば、知識、技術よりも大切なものを得られるはずです。それは人によって違うと思いますが、必ず得ることができます。救助科を卒業する時、「やりきった」ではなく、「ここまでやった」と胸を張って言えるよう、１日１日を大切に過ごしてください。